

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族 労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴	
施設野菜專業經營 I	人  3	いちご株冷	20	a	1. 品種「ゆめのか」 2. 高設栽培 3. 株冷処理による早期出荷 4. 環境制御技術
		いちご普通 計	10 30		
		経営耕地面積	畑	30 a	
経営目標	1 農業総収入	26,314	千円	4 1日当たり農業所得	10,926 円
	2 農業経営費	19,195	千円	5 1人当たり年間労働時間	1,738 時間
	3 農業所得	7,119	千円		

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数 量	型式・構造・能力	所 有 割 合	取得価格	耐 用 年 数	年 間 償 却 額
					千円	年	千円
建 物 ・ 施 設	ビニールハウス	3	連棟補強 I 型(HK)ハウス 1,000㎡	1	32,256	14	1,152
	高設栽培施設	3	一式 1,000㎡	1	29,907	7	2,136
	高設育苗施設	3	一式 1,000㎡対応分	1	5,455	7	390
	重油タンク	2	1900L	1	479	7	34
	防油堤	2		1	345	25	14
	電照施設	3	電照施設一式	1	2,871	7	205
	予冷库	1	3坪	1	1,282	7	92
	作業及び収納舎	1	軽量鉄骨 70㎡	1	6,616	24	276
	選果作業室	1	選果室 15㎡	1	1,418	24	59
	農機具倉庫	1	軽量鉄骨 20㎡	1	1,890	24	79
	計				82,518		4,436
農 機 具	トラック	1	軽トラック	1	1,324	4	166
	動力噴霧機	1	可搬式、防除タンク(500L)	1	184	7	13
	高設用耕耘機	1	1.6PS	1	106	7	8
	加温機	2	100,000kcl/h	1	3,177	7	227
	炭酸ガス発生装置	2	1600~2800㎡用	1	1,049	7	75
	循環扇	3	一式 1,000㎡	1	858	7	61
	自動換気装置	3	1000㎡用	1	2,809	7	201
	統合環境制御装置(長崎型)	2	モニタリング装置込み	1	1,338	7	96
		計				10,844	

3. 技術体系

(いちご 株冷)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(高設育苗) 親株植付け	親株床準備	11月上 ～11月下	高設育苗 施設一式 プランタ	2	12	24		高設育苗 プランタ使用 2株/1プランタ 専用親株 500株 250鉢×2株
施肥		11月上		2	2	4	肥効調節型肥料	プランタ施肥量(親株) 基肥 IB化成10粒/株 追肥 IB化成10粒/株
親株管理	ランナー配置	11月上～ 6月中	かん水施設	2	34	68		ポット配置 14cm×14cm間隔 県病害虫防除基準による
	かん水			1	3	3		
	病害虫防除		動力噴霧器	1	2	2		
鉢上げ	ポット準備 ランナー切断	4月～6月	トラック	2	58	117	10.5cmポット 10,000鉢	本葉2枚(発根初め)頃に行う 定植苗 7,500鉢 専用親株 1,000鉢 予備苗 1,500鉢
育苗ポット管理	かん水 追肥 摘葉	6月上 ～8月上	かん水施設	2	62	124	置き肥	N成分 100～200mg/ポット
病害虫防除	耕種の防除	2月下 ～9月上	動力噴霧機	2	27	54		炭そ病、うどんこ病の 防除を行う
株冷入出庫	花芽分化促進	8月中・下 ～9月上・中	株冷施設	2	13	26		入庫前日にかん水を行う。 庫内温度:15℃以下 コンテナはリース
(高設栽培) 床土消毒	太陽熱消毒 温湯消毒	7月下 ～8月中		2	4	8		最低50℃以上を目安とし 二週間程度ホリマルチで被覆
施肥	基肥施用	8月下	トラック	2	4	8		高設用耕耘機の活用 全面施用 基肥成分量(マルチ前施肥込み) N 9～13kg P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> 7.8～11.6kg K <sub>2</sub> O 7.4～10.9kg 1月～3月に固形または液肥施用
	追肥施用	10月上 ～4月		2	1	2		
定植準備	かん水資材 設置	8月下 ～9月中	トラック	2	3	6		

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
定植		9月上 ～下	トラック	2	28.5	57		栽植様式(2条、千鳥) 株間20cm 10a当たり 7,000株
マルチ		10月上 ～中		2	10	20	白黒ポリフィルム	マルチはうね肩まで上げ 天井ビニール被覆後 下げる
保温準備	ビニール張り	10月中 ～10月下	トラック	4	9	36	ビニール厚さ 0.075mm以上	暖房機の保守点検
管理	誘引	10月中 ～3月下		2	6	12		下葉かぎは古葉・黄化葉 等を中心に随時行う。
	摘葉、玉だし			2	25	50		玉出しは着色向上のために必ず行う。
	摘果			2	48	96		摘果も品質向上のために行う。
交配	蜜蜂放飼	10月中～	トラック	1	2	2	蜜蜂	6aに一群
環境制御	保温、換気 炭酸ガス施用 光合成促進	11月上 ～3月中	トラック 加温機 統合型環境制御装置 環境モニタリング 炭酸ガス発生装置 局所施用装置 自動換気装置	1	73	73		二重カーテン設置 午後 27～28℃ 夜間 6℃以上 早期加温(日の出前から日の出にかけて2時間程度。実温8℃程度) 設定地温16℃
	下温処理	3月中・下	動力噴霧機	2	2	4		下温処理 クワフン等のビニール塗布
かん水		9月上 ～5月下	かん水施設	1	35	35		定植後から十分にかん水を行い、早期の活着を目指す。 また、栽培中はこまめなかん水を行う。
病虫害防除	薬剤散布 耕種的防除	9月下 ～5月下	動力噴霧機	2	25	50		県病虫害防除基準による
収穫出荷		11月上 ～6月上	トラック	3.5	386	1351		取扱は丁寧に行う 4月以降は品質向上のために 早期どりを行う
後かたづけ	ほ場環境浄化	7月上	トラック 高設用耕耘機	2	10	20		
計						2252		

3. 技術体系

(いちご 普通)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(高設育苗) 親株植付け	親株床準備	11月上 ~11月下	高設育苗施設一式 プランタ	2	12	24		高設育苗 プランタ使用 2株/1プランタ 専用親株 500株 250鉢×2株
施肥		11月上		2	2	4	肥効調節型肥料	プランタ施肥量(親株) 基肥 1B化成5粒/株 追肥 被覆磷硝安加里 (40日)7~8g/株
親株管理	ランナー配置	11月上 ~ 6月中	かん水施設	2	35	70		ポット配置 14cm×14cm間隔 県病害虫防除基準による
	かん水			1	3	3		
	病害虫防除		動力噴霧器	1	3	3		
鉢上げ	ポット準備 ランナー切断	4月~6月	トラック	2	58	117	10.5cmポット 10,000鉢	本葉2枚(発根初め)頃に行う 定植苗 7,500鉢 専用親株 1,000鉢 予備苗 1,500鉢
育苗ポット管理	かん水 追肥 摘葉	6月上 ~8月上	かん水施設	2	79	158	置き肥	N成分 100~200mg/ポット
病害虫防除	耕種的防除	2月下 ~9月上	動力噴霧機	2	27	54		炭そ病、うどんこ病の 防除を行う
(高設栽培) 床土消毒	太陽熱消毒 温湯消毒	7月下 ~8月中		2	4	8		最低50°C以上を目安とし 二週間程度ポリマルチで被覆
施肥	基肥施用	8月下	トラック	2	4	8		高設用耕耘機の活用 全面施用 基肥成分量(マルチ前施肥込み) N 9~13kg P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> 7.8~11.6kg K <sub>2</sub> O 7.4~10.9kg 1月~3月に固形または液肥施用
	追肥施用	10月上 ~4月		1	1	2		
定植準備	かん水資材 設置	8月下 ~9月中	トラック	2	3	6		
定植		9月上 ~下	トラック	2	28.5	57		栽植様式(2条、千鳥) 株間20cm 10a当たり 7,000株
マルチ		10月上 ~中		2	10	20	白黒ポリフィルム	マルチはうね肩まで上げ 天井ビニール被覆後 下げる

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
保温準備	ビニール張り	10月中 ～10月下	トラック	4	9	36	ビニール厚さ 0.075mm以上	暖房機の保守点検
管理	誘引	10月中 ～3月下		2	6	12		下葉かぎは古葉・黄化葉 等を中心に随時行う。
	摘葉、玉だし			2	25	50		玉出しは着色向上のために必ず行う。
	摘果			2	47.5	95		摘果も品質向上のために行う。
交配	蜜蜂放飼	10月中～	トラック	1	2	2	蜜蜂	6aに一群
環境制御	保温、換気 炭酸ガス施用 光合成促進	11月上 ～3月中	トラック 加温機 統合型環境制御装置 環境モニタリング 炭酸ガス発生装置 局所施用装置 自動換気装置	1	73	73		二重カーテン設置 午後 27～28℃ 夜間 6℃以上 早期加温(日の出前から日の出にかけて2時間程度。実温8℃程度) 設定地温16℃
	下温処理	3月中・下	動力噴霧機	2	2	4		下温処理 ケルフィン等のビニール塗布
かん水		9月上 ～5月下	かん水施設	1	35	35		定植後から十分にかん水を行い、早期の活着を目指す。 また、栽培中はこまめなかん水を行う。
病虫害防除	薬剤散布 耕種的防除	9月下 ～5月下	動力噴霧機	2	25	50		県病虫害防除基準による
収穫出荷		11月上 ～6月上	トラック	3.5	347.5	1216		取扱は丁寧に行う 4月以降は品質向上のために 早期どりを行う
後かたづけ		7月上	トラック 高設用耕耘機	2	10	20		
計						2127		

